

2023 年 4 月 24 日

通貨ニュース

G4 PMI 速報値: グローバルに非製造業の優位が続く

S&P Global 社が集計する購買担当者指数(PMI)によれば、4 月分の G4(米国、ユーロ圏、英国、日本)のコンポジット PMI(速報値、以下同様)は 54.0 と前月(53.1)から 4 か月連続で上昇した(図表 1)。3 か月連続で拡大/縮小の目安となる 50 を上回るとともに、22 年 4 月以来の高水準を記録した。G4 製造業 PMI は 48.3 と前月(48.5)から低下し、7 か月連続の中立水準割れを記録。他方、非製造業 PMI に関しては 54.7 と前月(53.7)から 4 か月連続で上昇し、3 か月連続で中立水準超えとなった。非製造業 PMI の改善が引き続き顕著で、非製造業 PMI と製造業 PMI との差異は 6.40 となり、データの取れる 09 年 10 月以降で最大を更新している。

まず、製造業 PMI の構成項目別に確認しよう。製造業 PMI の生産指数は、50.1 と前月(49.9)から 5 か月連続で上昇し、22 年 5 月以来 11 か月ぶりに中立水準を上回った(図表 2)。一方、サブ指数である生産見通し指数は、63.4 と前月(63.8)から 3 か月連続で低下した(図表 3)。他方、非製造業 PMI の活動見通し指数は、65.0 と前月(64.1)から上昇し、依然高水準を維持している。製造業 PMI のヘッドラインこそ軟調も、現況指数は回復傾向にあり、見た目の数字ほどは弱気でないことが確認できる。ただし、製造業 PMI の生産見通し指数は頭打ちの兆しを見せており、高止まりすると予想される各国の政策金利が中期的な見通しを押さえつけていることが推察される。

次に、製造業 PMI の新規受注指数は 47.9 と前月(47.6)から 4 か月連続で上昇した。昨年末以降底打ちをしているものの、依然として回復ペースは鈍く、11 か月連続の中立水準割れだ(図表 4)。また、サブ指数の新規輸出受注指数も 46.5 と前月(46.2)からは上昇するも、こちらも 12 か月連続で中立水準割れを継続している(図表 5)。中国経済の回復期待などを背景に両指数ともに底打ちはしているものの、新規輸出受注指数の推移に鑑みれば、特に高水準の政策金利を背景とした外需の下押しへの警戒感が根強いようだ。

また、製造業 PMI の原材料在庫指数は 47.9 と前月(49.0)から 4 か月ぶりに低下した(図表 7)。底打ちの気配は漂うものの、6 か月連続で中立水準割れを続けており、継続的な消費者需要縮小を反映し、企業が在庫を圧縮させ続けていることが確認できる。ここでも、企業の慎重姿勢が示唆されよう。

続いて製造業 PMI の雇用指数を確認すると、52.0 と前月(51.4)から上昇した(図表 8)。22 年前半程の増勢はないが、29 か月連続で中立水準超えを記録しており、未だに採用意欲は大きく弱含んではないようだ。非製造業 PMI の雇用指数は 54.2 と前月(52.5)から 3 か月連続で上昇し、33 か月連続の中立水準超えを記録している。特に、23 年に入ってから増勢が顕著だ。米国を中心に、特にサービス部門での雇用者数増が続いていることも平仄が合うだろう。

市場営業部

長谷川 久悟

03-3242-7065

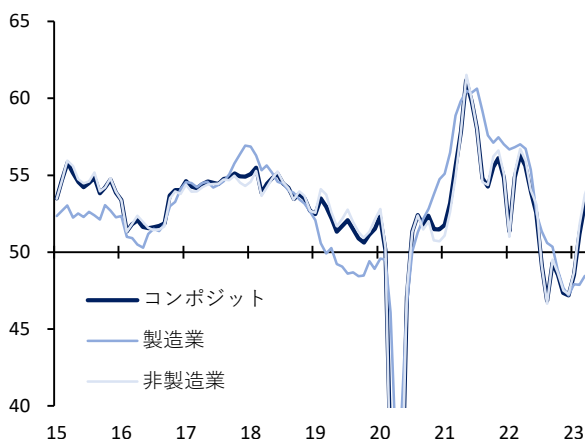
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

製造業 PMI の最後の構成項目である入荷遅延指数(逆インデックス)は、58.5 と前月(56.4)から 12 か月連続で上昇し、データの取れる 07 年 5 月以降で最高水準を更新している(図表 9)。従前からの供給制約改善に加え、需要の減退がサプライチェーンの目詰まり改善に拍車をかけているようだ。また、サブ指数である仕入れ価格指数は 54.4 と前月(54.3)から 7 か月ぶりに上昇。出荷価格指数に関しても 55.9 と前月(54.6)から上昇した(図表 10、11)。非製造業 PMI の価格指数に関しても同じく底打ちの気配を見せており、警戒が必要だ。基調としてデイスインフレ方向にはあるが、公表元のコメントにおいてもインフレ率の高止まりを懸念する旨が記載されており、インフレ鈍化の遅れには注意を払いたい。

コンポジット PMI に関し G4 各国を国別に確認すると、日本(52.9→52.5)を除く米国・ユーロ圏・英国において上昇した(図表 12~18)。もっとも、日本に関しては、4 月は低下も 23 年に入ってからでは中立水準超えを維持しており、基調としては堅調と評価できる。項目別に目を移すと、日本の非製造業 PMI は 54.9 と前月(55.0)からほぼ不変の結果となり、13 年 10 月以来では 2 番目に強い数字となった。特に、新規事業指数は 07 年 9 月の調査開始以来最高となる 55.4 まで上昇した。訪日外国人数に関する報道が取りざたされる中、インバウンド需要の先行きも強気のような。他方で、製造業 PMI は 49.5 と前月の 49.2 からは改善も、6 か月連続で中立水準割れを継続しており、より一層の内需回復が待たれる状況だ。

また、他の国・地域だと、ユーロ圏の製造業の軟調さが際立つ。ユーロ圏の製造業 PMI と非製造業 PMI との差異は▲11.1 を記録し、データを遡れる 98 年 7 月以来で最大のマイナス幅となっている。しかし、これはフランスの製造業 PMI の悪化(47.3→45.5)の寄与が大きく、マクロン政権の年金改革に対する抗議活動による特殊要因が指摘されている。

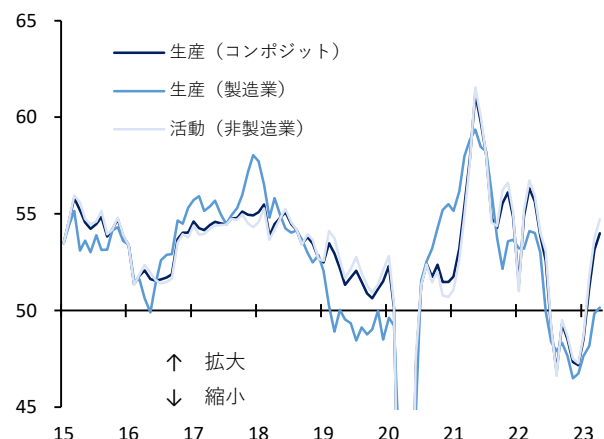
図表 1: G4 PMI



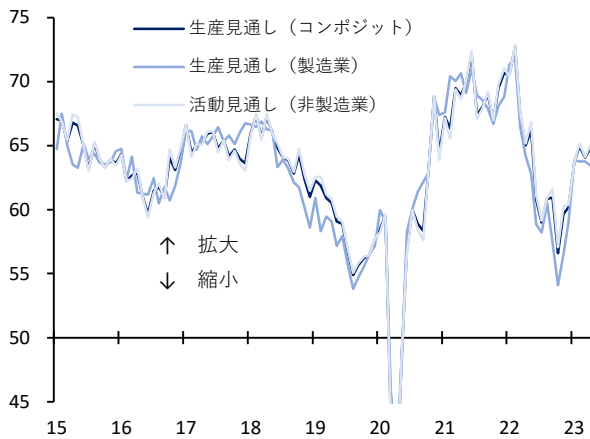
出所: S&P Global、みずほ銀行

※パンデミック期の下限は意図的にカットしている。以下図も同様

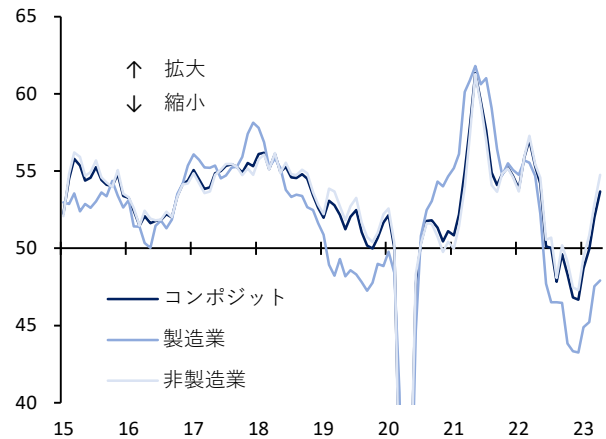
図表 2: 生産/活動指数



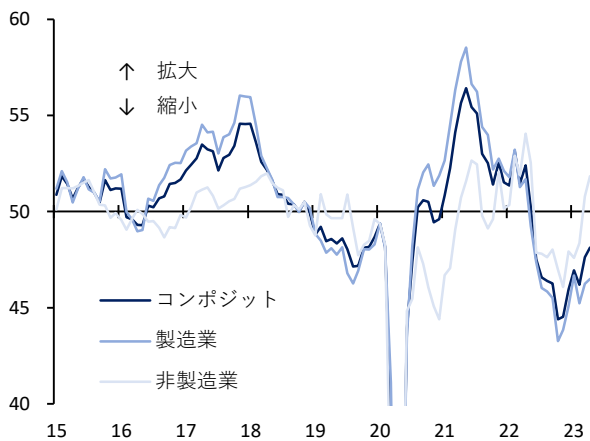
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 3:生産/活動見通し指数


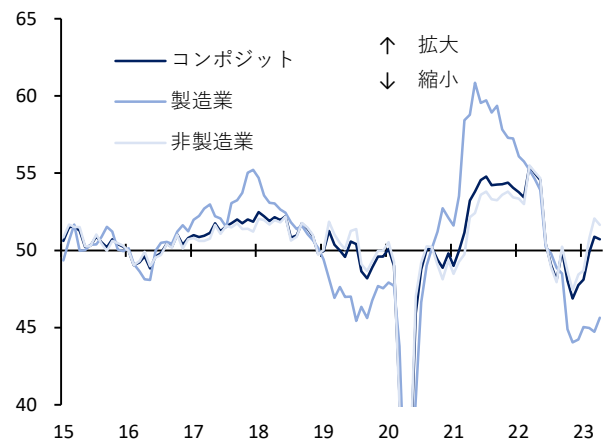
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 4:新規受注指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 5:新規輸出受注指数


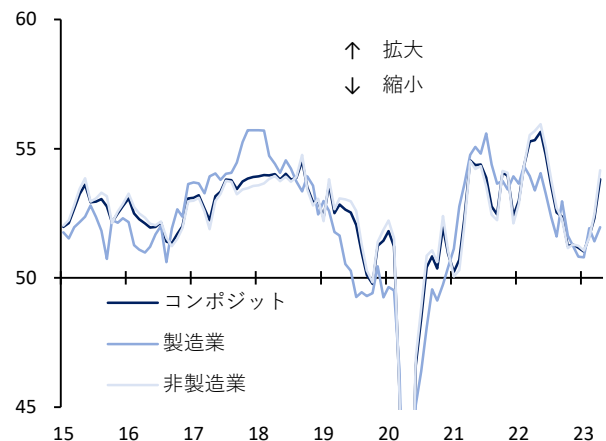
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 6:受注残指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 7:製造業 PMI-在庫関連指数

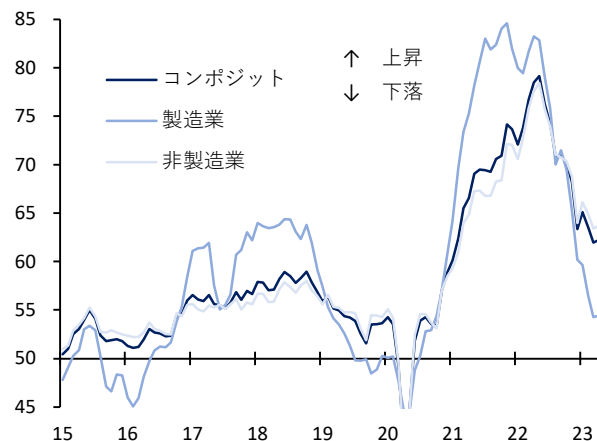

出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 8:雇用指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 9: 製造業 PMI・入荷遅延指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 10: 仕入れ価格指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 11: 出荷価格指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 12: コンポジット PMI・国別


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 13: 製造業 PMI・国別

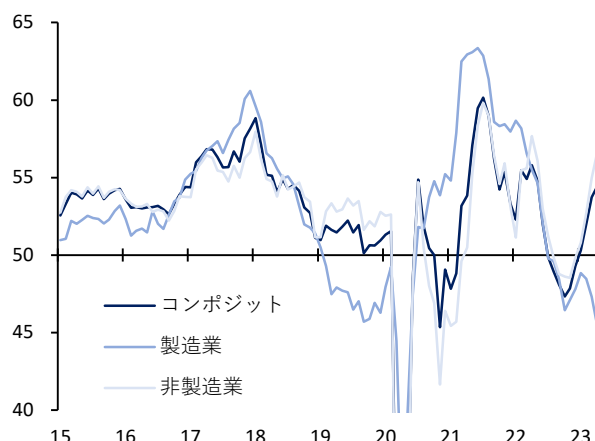

出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 14: 非製造業 PMI・国別

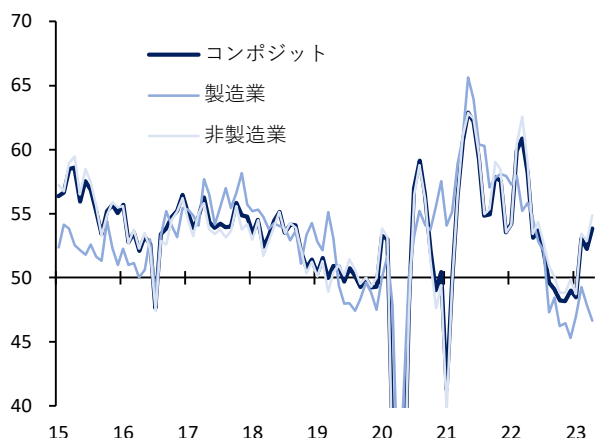

出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 15: 米国

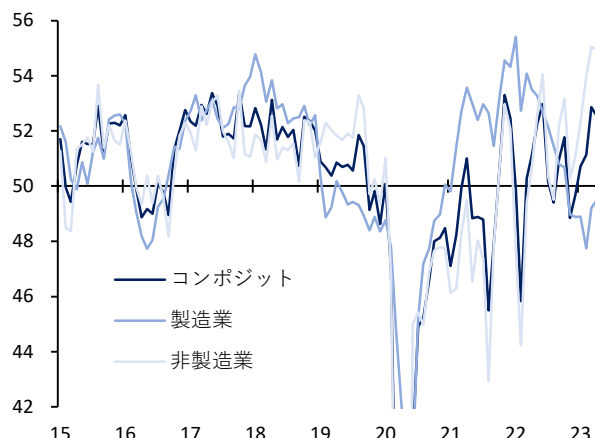

出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 16: ユーロ圏


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 17: 英国


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 18: 日本


出所: S&P Global、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。